

国際戦略

デジタル社会構想会議 構成員

伊藤 穰一（主査）、國領 二郎、三木谷 浩史

2021年11月4日

これまでの検討内容

1. 構成員によるディスカッション 10月22日実施
 - 参加者（敬称略）：伊藤（主）、国領、三木谷（代理：関）
2. CXO、分野統括インタビュー
 - 10/15 坂CISO
 - 10/20 水島CPO、藤本CTO、江崎CA
 - 10/21 浅沼CDO、平本データ戦略統括

検討アプローチ

- **信頼（with trust）**の文脈で国際戦略を考える
- **オープン標準**の活用、すでに存在しているものを作らない
- **信頼を基盤とした国際的競業**を確立する
- **関連する課題**（例：イコール・フットイング（国内企業のみへの制度適用等の不公平是正）も取り上げる

構成員からの主な意見①

A) 国際標準、グローバル基準への対応（制度、技術の両面）

1. 国際標準策定を牽引

- **DFFT（コンセプトからパッケージへ）**
- データ品質

2. 国際標準への準拠

- 脱ガラパゴス
- 非政府依存、非商用のオープンスタンダード活用
- GDPR等、広範囲で用いられる制度への対応

3. 国際的な論点（グローバル基準）への対応

- 安全保障（採用してよい製品、サービス）
- データローカライゼーション

関連するCXO意見

- 国際標準を正しく理解し、正しく使うことが重要
- 調達時に国際標準準拠を前提とするべき
- “なんちゃって標準”に注意
- 国際標準における実際の意思決定者とデジタル庁の関係強化、交渉推進
- デジタル基盤を担当するデジタル庁が国際標準との接点（ハブ）となり展開
- そもそも非国際的なIT化はありえない

構成員からの主な意見②

B) 国際連携・国際協調

1. 情報発信、透明性向上

- 資料やWebサイトの英語化（多言語化）
- 国際会議の開催・参加
- 研究機関、学術機関との連携

2. 他国デジタル庁(相当機関)との連携

- 信頼関係の醸成、信頼に基づく協業（サイバーセキュリティ等）
- 人材育成、人材交流
- 類似プロジェクトの事前調査（ゼロから作らないための開始前調査、先行国が直面した課題や問題点なども含めた正しい理解）
- 共同プロジェクト、共同開発（システム、サービス）
- ベンダーとの交渉（クラウド、OS、デバイス等）

3. 他国支援

- ノウハウ提供
- プロジェクト支援

- 比較すると、日本はツール活用度が低く生産性も低い
- 普段からUI/UXの高いものを使わないと感度が上がらない
- 内製化の先行事例に学びたい
- システムの稼働状況（モニタリング）、ビジュアル化
- 利用者視点でのサービス開発、そのための海外事例活用（サービスデザイン）
- オープンガバメントへの感度が弱く、国際的なプレッシャーが必要

構成員からの主な意見③

C) 国際 x デジタルの文脈で検討するべき論点

1. 人材

- グローバル人材の育成
- 海外人材、外国人材の活用

2. イコール・フットイング

- 国内企業のみへの制度適用等による不公平是正

3. 規制対応コスト

4. デジタルGDP

5. キャッシュレス

6. 民営化

7. 幸福度、Well-being



国際だけで完結するものは少ない。他の施策との関係性を要整理。
デジタル庁の役割に収まらない論点への対応整理。
国際的な学びの国内展開方法について要検討。